

令和7年度白馬村ナラ枯れ現地検証及び対策会議 要旨

1. 日 時 令和7年8月28日（木）現地 午前9時30分～午前10時15分
会議 午前10時30分～正午
2. 場 所 現地：八方地区、どんぐり地区
会議：白馬村役場 201・202 会議室
3. 出席者 白馬村：丸山村長、田中農政課長、矢口建設課長、内川財政係長、
伊藤林務係長、大塚農政係長
白馬村議会：丸山議員（産業経済委員長）
北アルプス地域振興局：山口森林保護専門員
長野県林業総合センター：柳澤研究員
北アルプス森林組合：古畑主任
山仕事創造舎：林白馬担当、川村白馬担当
やまさと林業：片山代表

4. 現地検証（現地）

（1）八方地区 ふれあいの杜

- ・村から、ふれあいの杜のナラ枯れの状況及び村が直営で実施した施業を説明した。
- ・7月末頃一気に枯れだした。安全確保のために8月2日から5日に掛け、特に危険と思われるミズナラの伐倒くん蒸処理を行った。処理期間中、なるべく木を残してほしいとのご意見もあり、一部のミズナラは樹幹注入処理をした。8月上旬に樹幹注入したナラも所々枯れ始めている葉も出てきている。今後、国庫補助金を活用して伐採を考えている。
- ・県林業総合センターより、樹幹注入の時期についてアドバイスがあった。
- ・昨年の秋頃に樹幹注入したナラは枯れずに残っているので、適期に樹幹注入することの効果を確認できた。

○どんぐり地区 展望台

- ・展望台から岩岳、八方地区、木流川遊歩道の状況を確認した。
- ・八方地区のスキー場エリアも所々枯れている状況を確認し、木流川遊歩道エリアも同様であった。
- ・県が展望台付近のナラ枯れ処理後の萌芽状況のプロット調査を実施した。
- ・切り株、土中、どんぐりの実等から順調に芽吹いており、天然更新状況を確認した。

5. 対策会議（役場 201・202 会議室）

（1）あいさつ及び状況報告（白馬村長）

この会議も、令和4年から数え今年で4回目となる。白馬村のナラ枯れは、平成21年頃に発生し、平成27年頃に一旦終息した。その後、令和2年頃から岩岳地区を中心に再発生し、どんぐり区、和田野区、八方区、みそら野区、神城地区の一部で確認されており、令和7年現在、終息には至っていない。以前は、一定のエリアで概ね5年程度で終息しが、最近の猛暑の

影響か、状況が変わってきていると感じている。

今年の春は残雪が多く、4月から6月頃は気温もそれほど上昇せず、昨年と比較し、ナラ枯れは目立たなくなり、一旦終息を迎えたように思われたが、7月は全国的に猛暑となり、白馬村でも暑い日が続いた。特に7月の後半は、“熱中症警戒アラート発令”や“暑さ指数”が厳重警戒レベルになる日もあり、最終週に、岩岳、八方の山林、どんぐり区の山林や宅地周辺、公共施設“ふれあいの杜”付近で、新たなナラ枯れが目立つようになり、8月のお盆に、木流川遊歩道沿いでカエントケが発見され、2～3日後に遊歩道沿いナラが急激に枯れ始めた。

本日は、まず、被害の現場を確認していただいたが、会議では、現状・情報共有のほか、県の専門的な見解やご助言も含めて、今後の対策を確認したい。

(2) 各団体からの報告（情報共有）

①白馬村農政課

資料に基づき、伊藤林務係長が説明。

資料1 白馬村のナラ枯れ被害対策

- ・令和6年度ナラ枯れ現地検証及び対策会議概要
- ・処理実績（R7.8.26 現在）
- ・令和7年の状況
- ・ナラ枯れ材の利活用

資料2 口頭電話記録簿（カシナガトラップ座間安全・安心推進会）

資料3 座間市ナラ枯れ記事

資料4 白馬村森林整備計画（抜粋）

資料5 白馬村ナラ枯れ被害エリア

②北アルプス地域振興局

資料に基づき、山口森林保護専門員が説明。

③長野県林業総合センター

資料（パワーポイント）に基づき、柳澤研究員が説明。

○栄村の事例紹介

栄村では、現在の白馬村と全く同じような状態が、平成19年から平成25年まで続いた。その後の山林がどうなっているかの定点監察を行っているが、現在では元の風景が広がっている（山としてしっかり維持されている）ことを写真で紹介した。栄村の事例を参考に推察すると、「今後被害拡大の可能性はあるが、何れ終息し、苗・稚樹や萌芽が育って更新する」との見解。

どんぐり地区の展望台も被害発生から2年経過しており、「更新完了基準を満たしている」との見解。今後も他の樹木の影響が原因で成長が阻害されることも考えられるので、定期的に確認する必要がある。

④林業事業体

○北アルプス森林組合

- ・樹幹注入の相談がかなりある。
- ・樹幹注入の薬（ビン）が非常に高価であるため、守りたい木1、2本の場合だと、薬が余ってしまい、非常に心苦しい。何か検討が出来ればと思っている。

- ・座間市のペットボトルのトラップも成果が出ているのであれば試してもよいのでは。

○やまさと林業

- ・ナラ材の利活用が課題。移動制限があるので、置き場所があればよい。
- ・今年度から支障木伐採・森林病虫害防除補助金を創設していただいたが、補助金終了後も相談があり、心苦しい状況である。
- ・大径木が枯れているが、製材利用したい。移動制限が何とかならないか。

○山仕事創造舎

- ・飯田地区にもナラ枯れが出始めている。南下しない方策が必要。
- ・八方地区は、春頃は少なかったが、夏に急激に増えた。
- ・7月から9月のカシノナガキクイムシの活発な時期より前か、10月以降に手を打つのが非常に大事だと思う。

(3) 意見交換・今後の対策

①くん蒸処理の効果について

○白馬村：田中農政課長

- ・全村的に被害が拡大している。くん蒸処理の効果についてお伺いしたい。

○長野県林業総合センター：柳澤研究員

- ・くん蒸処理は、ナラ枯れの被害の入りたての初期対応。現在の状況では、焼け石に水でほとんど効果がない。
- ・カシノナガキクイムシは乾燥で死滅するので、伐採し玉切り、傷を入れることが必要。
- ・守りたい樹、守るべき樹があれば樹幹注入の方が効果はみえやすい。
- ・薪利用は、早期に割り乾燥させることが大事。この場合、虫が死滅するので、くん蒸処理の必要はないと考える。

②カシノナガキクイムシの生態、移動制限について

○長野県林業総合センター：柳澤研究員

- ・樹の中にカシノナガキクイムシが生息しており、温暖化により活動が活発になる。
- ・健全木で乾燥した薪はカシノナガキクイムシにとって何の魅力もないので、住み着くことはない。

○北アルプス地域振興局：山口森林保護専門員

- ・カシノナガキクイムシは在来種であり、古来より存在している虫であり、普通に存在している種である。猛烈な暑さに伴い、カシノナガキクイムシの活性化により樹への攻撃に繋がったものによることが推察される。
- ・カシノナガキクイムシは必ず卵を産む際に穴をあける。
- ・松枯れと違い、ナラ枯れは移動制限がない。長野県でも特段決めてはいない。
- ・国のナラ枯れ防除実施基準では未被害地への持ち出しはいけない。

③栄村の対応について

○白馬村：丸山村長

- ・栄村では具体的にはどのような対策を行ったのか。

○長野県林業総合センター：柳澤研究員

- ・特に大きな対策はしていなかった。電線や道路に倒れたら困るものだけ個々に対応して

いた。樹幹注入剤も改良中であったため、やっていなかったと思う。

④倒木の事故などについて

○白馬村：田中農政課長

- ・栄村においてナラ枯れが原因で倒木による事故はあったのか。

○長野県林業総合センター：柳澤研究員

- ・栄村ではなく、数年前に県内の公園において散歩していた人にナラの枯木が倒れて当たり、死亡したという事故があった。ナラ枯れが原因であったかはわからない。

⑤樹幹注入の薬について

○北アルプス森林組合：古畑主任

- ・樹幹注入の薬（ビン）が非常に高価であるため、守りたい木 1、2 本のみの場合だと、薬が余ってしまうため、何か検討が出来ればと思っている。
- ・樹幹注入をしたい人を集計すれば必要な薬の量がわかるなど対策ができればと思う。

○長野県林業総合センター：柳澤研究員

- ・メーカーに聞いてみる。要望があるという話はしたい。

⑥ペットボトルトラップについて

○白馬村：丸山村長

- ・座間市のペットボトルトラップは丁度終期に合致したようにも見える。
- ・住民に効果があるのかわからないものを勧めするわけにはいかないが、実験として取り組みばどうか。

○白馬村：田中農政課長

- ・座間市は熱心なボランティアがリーダーとなり取り組んでいる。
- ・発端は行政のナラ枯れ処理に対する税金の使い道に疑問を抱き、ペットボトルトラップに取り組んだと聞いた。
- ・樹一本にペットボトル 70 本で構成されている。地域で真剣に取り組んでくれている人がいれば成立すると思う。

⑦ナラ枯れ被害木の倒木等について

○白馬村：伊藤林務係長

- ・道路等に張り出しているナラ枯れ被害木は確実に折れるのか。折れたら確実に被害になる。流れとして、まず枯れる、それから白骨化する、その後力関係もあると思うがどうなるのか。

○長野県林業総合センター：柳澤研究員

- ・やはり、折れるものとして対応すべき。張り出した部分に余裕をもって切るべきと考える。

○北アルプス地域振興局：山口森林保護専門員

- ・森林税のメニューがある。地目が山林でなくてもよい。

○白馬村：矢口建設課長

- ・道路管理者としてもどう対処していいかわからないのでご教授願いたい。
- ・全ての路線を事業として対応するのは困難である。
- ・また、ナラ枯れではないが、昨冬、大木になった杉とかカラマツの折れ、電線や道路に影響が相当数あった。その点も含めてご助言いただきたい。

○北アルプス地域振興局：山口森林保護専門員

- ・県の建設事務所でも全く同じ話をされている。何かいい補助金がないかという問い合わせがくる。実際には折れた場合の対処していない状況。
- ・新しいメニューが建設でもできればいいのだが、民有地は、基本は所有者管理が基本なので、所有者にどういう風にアプローチをするかが重要で、足踏みをしている状況。

○やまさと林業：片山代表

- ・小谷の林道ではやってない。今のナラ枯れ防除ということはやっていないと思う。
- ・ライフラインを優先に対応していた。

○北アルプス地域振興局：山口森林保護専門員

- ・課題として、どこに注力して処理していくかということで、防除対策もそうだが、村で公費をかけてどれを行っていくか優先順位を決めなければいけないと思う。

○やまさと林業：片山代表

- ・ライフライン全てをやるのは大変。

○白馬村：矢口建設課長

- ・今年、ナラ枯れの場所ではないが、倒木が車に当たったことがあった。被害者が村に言ってきたが、村は道路管理上のものではないと回答。結果、地権者に請求がいったという話を聞いた。地権者の皆さまがそのようなリスクを感じているかというところではない気がする。

○白馬村：田中農政課長

- ・全県で啓蒙してほしい。
- ・ここ数年、景観対策も含め、村も対策してきたが被害は終息していない。
- ・今年度から「支障木伐採・森林病虫害防除補助金事業」創設したが、申請は、全ての地目は宅地で山林ではない。財政係も出席しているが、補助金の財源は、一般財源、ふるさと基金を充当している状況。
- ・山林が宅地化している経過がある。

⑧激害地域と微害地域について

○白馬村：大塚農政係長

- ・神城地区は、あまり被害がない。くん蒸はしなくてもいいものなのか。

○長野県林業総合センター：柳澤研究員

- ・山を越えて大町市ででたら、大町市では伐倒くん蒸はやる意味はあると考える。
- ・白馬村内で近隣の虫が行くのでやる意味があるのかは難しい。やらないよりはやった方がいい程度。それだったら、もっとライフラインの対応した方がいいという考え方もある。

⑨まとめ

○白馬村：丸山村長

- ・貴重な意見をいただき感謝する。本日の意見を基に、ナラ枯れの対応をしていきたい。

1. 全てではないが、樹の中には在来種であるカシノナガキクイムシが生息しており、温暖化により活動が活発になること。
2. 行政が中心となりナラ枯れ処理をしてきたが、公費を投入することには限界があること
3. 全ての樹を処理することはできないため、村は公有管理地を中心に処理するが、民有地は住民や観光客等への影響を考慮し、ライフライン沿いを中心に処理すること。
4. 被害が全村に広がりつつあるため、今後、伐倒くん蒸処理は効果が期待できないことから、伐採玉切り処理に移行すること。
5. 真に守りたいナラに適切な時期に樹幹注入を行っていくこととする。ただし、樹幹注入したナラも状況によって枯れてしまうこともあることも念頭におく必要がある。
6. 被害木の利活用を進めること。
7. 被害木を薪として利用する場合は年内に割り、村内で消費すること。
8. 過去に白馬村と全く同じナラ枯れ被害のあった栄村では自然的に終息し、村では特に大きな対策をしていなかったこと。
9. ナラ枯れ被害が大きかった、どんぐり地区展望台付近のナラの植生が回復していること。
10. 山林樹木等の所有者にリスク管理の啓蒙を行うこと。
11. 所有者の管理を促すため、今年度より、「支障木伐採・森林病虫害防除補助金事業」創設したこと。